

なぜ多くの女性は、これほどまでに  
偽りの姿で生きているのだろう。

# 私の顔は誰も知らない

定価：本体 2200円 [税別] 四六判・並製 380頁

インベカヨリ★

写真家 第43回伊奈信男賞、2019年日本写真協会新人賞  
ノンフィクションライター 『家族不適応殺 新幹線無差別殺傷犯、小島一朗の実像』（KADOKAWA/2021）



膨大な数の女性の「個」に迫りポートレートを撮影してきた写真家の、初エッセイ&インタビュー集。被写体や女性たちへのインタビューと、著者自身の語りを通して、多くの女性が偽りの姿で生きざるを得ない、歪な社会構造を炙り出し、女性にとっての、ひいては人間にとっての幸福とは何なのかを考える。



「普通を『擬態』して生きる  
この社会には、かつての私と同じように擬態して生きている女性があまりに多い。「他人には理解されないだろう」と考えて、誰にも話していないことを持つている。しかもそれは、普段は自己主張が少なかつたり、まっとうに生きているように見えている女性ほど、内面との落差が凄まじい。多くの女性は、社会に適応して他人とコミュニケーションをとるために、いかにもその辺にいそうな人間に擬態していたのだ。（本文より抜粋）

装丁：吉岡秀典（セブテンパーカウボーイ）

本文内容見本

いんべ・かをり●1980年、東京都生まれ。写真家。13年に出版の写真集『やっぱ月帰るわ、私。』（赤々舎）で第39回木村伊兵衛写真賞最終候補に。18年第43回伊奈信男賞を受賞、19年日本写真協会新人賞受賞。写真集に、『理想の猫じゃない』（赤々舎/2018）、『ふあふあの隙間』（①②③のシリーズ/赤々舎/2018）がある。ノンフィクションライターとしても活動しており、著書に『家族不適応殺 新幹線無差別殺傷犯、小島一朗の実像』（KADOKAWA/2021）がある。本書は初のエッセイとなる。

受注FAX 03-5356-9786 (人々舎)

- ▶取引取次：鎌谷書店
- ▶トーハン、日販、楽天ブックスネットワーク、中央社、ほかの取次帳合書店様にも納品いたします。
- ▶注文出荷制のため見計らい配本は行っていません。 ▶返品は無期限で承ります【返品了解：樋口】 ▶直接取引大歓迎です。

<p>貴店印</p> <p>ご担当</p>	<p>新刊</p> <p>部</p>	<p>私の顔は誰も知らない インベカヨリ★</p> <p>定価：本体 2200円 [税別] 四六判・並製 380頁 東幅2.2cm ISBN978-4-910553-01-6 C0095 5月16日（月）取次搬入</p>
-----------------------	--------------------	--